





「やってみたい」がいっぱいある。

重江良樹 監督作品
（『さとにきたらええやん』）

ゆめパのじかん



映画上映会



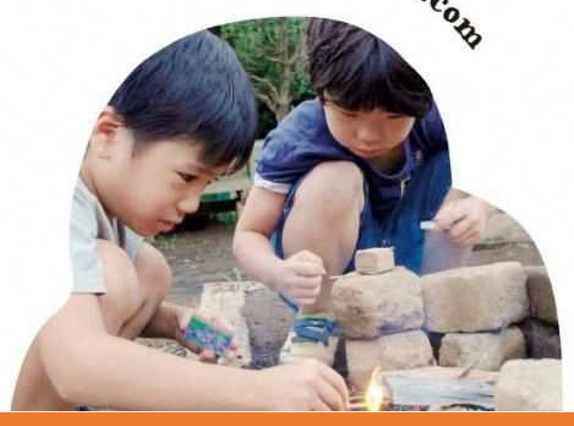








yumepa-no-jikan.com



神奈川県川崎市にある子どもたちの居場所「川崎市子ども夢パーク」＝通称「ゆめパ」。
遊んで、転んで、立ち止まって……誰もが安心して自分らしく過ごせる居場所で育まれる、
子どもたちのかけがえのない“じかん”を情感豊かに描いた珠玉のドキュメンタリー。

監督・撮影：重江良樹　構成・プロデューサー：大澤 一生　編集：辻井 潔　音楽：児玉 奈央　制作協力：認定NPO法人フリースペースたまりば
撮影協力：川崎市、川崎市子ども夢パーク、公益財団法人 川崎市生涯学習財団、夢パーク支援委員会、ちいくれん（地域で子育てを考えよう連絡会）、風基建設株式会社
製作：ガーラフィルム、ノンデライコ　宣伝：ウッキー・プロダクション、リガード　配給：ノンデライコ　2022／日本／90分／日本語／カラー／ドキュメンタリー
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会　推薦：厚生労働省社会保障審議会

日時：令和 8年 12月 6日（日）14:00～16:30　参加費：無料
場所：富士見市立鶴瀬コミュニティセンターホール　事前申込不要

主催：居場所サポーターズCoCoいる　協力：富士見市（子ども未来応援センター）
問合せ：子ども未来応援センター：**049-252-3773**（受付時間 平日8:30-17:15）



いまを生きるすべての子どもと、かつて子どもだった大人（あなた）に贈る、

生きる力を育む“じかん”

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集っています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も・・・。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め——。

家庭でもない、学校でもない、第3の子どもの居場所を公設民営で運営している先進的なモデルとして、全国の自治体から注目を集めるゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、『さとにきたらええやん』の重江良樹監督。遊ぶこと、学ぶこと、休息すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのかけがえのない“じかん”はきっと大人たちにも大切なものを思い起こさせてくれることでしょう。

子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。



子どもは“好き”を見つけ、“自分らしさ”を表現する才能があると改めて感じました。

『ゆめパのじかん』では、その才能を最大限に発揮し、大人にはない行動力を爆発させている、子どもたちの輝く瞬間をリアルに映し出しています。周りと同じである必要なんてなく、自分らしさを持つことが大切だということを子どもたちが教えてくれました。年齢問わず、多くの方にこの作品を観ていただきたいです。

——中川翔子（歌手／タレント）

未来はひとりひとりの手作りの希望からしか生まれない。

——谷川俊太郎（詩人）

「子どもは自分で考えて決断することができない庇護すべきか弱いイキモノである。だから、我々オトナは彼らを守り、教え、“正しい道”に導かなければならない」。『ゆめパのじかん』を観た後はそんな思い込みがきっと一掃されてしまうだろう。

無気力で勉強嫌いと思われがちな不登校児のイメージも変わるかもしれない。

——深爪（エッセイスト）



「川崎市子ども夢パーク」とは

神奈川県川崎市高津区にある子どものための遊び場。2000年に制定された「川崎市子どもの権利に関する条例」をもとに市民参画で作られた。工場跡地を利用した約1万㎡の広大な敷地にはプレーパークエリア、音楽スタジオや創作スペース、ゴロゴロ過ごせる部屋のほか、学校に行っていない子どものための「フリースペース・えん」が開設されている。乳幼児から高校生くらいまで、幅広い年齢の子どもが利用している。

yumepark.net